

平成 30 年度ブロック研修会報告書

ブロック名 東北

平成 30 年度ブロック研修会の実施結果について、下記のとおり報告します。

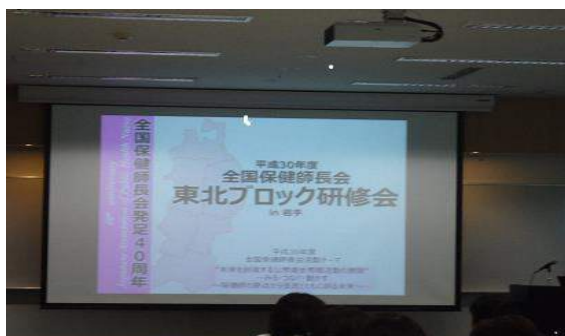
研修テーマ	地域に責任を持った活動の強化	
開催日時	平成 30 年 9 月 1 日 (土) 13 時 15 分 ～ 16 時 30 分	
会場	名称：いわて県民情報交流センター (アイーナ) 住所：岩手県盛岡市	
参加人数	77 人 (内訳：会員 60 人、非会員 17 人)	※講師・研究報告者を含む

《内容》

- 1 挨拶 岩手県保健師長会 武田会長
- 2 来賓挨拶 岩手県保健福祉部 八重樫部長
- 3 全国保健師長会活動報告 常任理事 岡島 さおり 氏
- 4 全国保健師長会活動紹介スライドショー上映
- 5 調査研究班報告 「災害時の保健活動の推進に関する研究」
報告者：福島県保健福祉部 障がい福祉課長 遠藤 智子 氏
- 6 講演・意見交換 「みる・つなぐ・うごかす ～保健師の原点から住民とともに創る未来～」
講師：札幌市保健福祉局高齢保健福祉部
地域包括ケア推進担当部長 岡島 さおり 氏

《研修会の様子》

◇オープニング



(40周年を記念し格調高く！若手会員の力作です。)

◇調査研究報告



(平常時の備え、受援準備、リエゾン配置の必要性など重要な示唆をいただきました。)

◇講演



◇主な講演内容

「住民とともに創る未来とは？」の投げかけから始まった講演会。

住民は何を望み、地域の構成員全員で未来を創造するために、行政で働く保健師は何をすべきかなどについて、具体的な事例を挙げながらお話いただきました。

主なポイントとしては、「地域住民の声を集める工夫」、「会議の人選、テーマ設定」、「保健師ならではの公衆衛生看護技術を駆使したアセスメント・マネジメント・ソーシャルキャピタル」、「進むべき方向を明確にする目標設定」などなど。

また、札幌市の地域包括ケアや認知症対策に係る5つの具体的な取組をご紹介します。

地域の将来を見越した施策を展開していくために、保健師の人材育成はもとより、行政が住民組織に働きかけ、地域で自主的に活動を行うための組織育成や住民活動を支えるしくみづくり、多職種連携の場づくり等を行っている様子は、まさに保健師のコアである「みる・つなぐ・動かす」を活かした取組であり、とても参考になるお話でした。

今回の研修会には、若手から管理期まで幅広い年齢層の保健師が参加していましたが、講師の岡島氏から、若い保健師及び管理期の保健師へそれぞれ期待することとして大切なメッセージもいただきました。

講演の最後には、保健師が地域に責任を持った活動を継続して行くためには、個別事例を最後までやりきること、支援をあきらめず、地域から目を逸らさないことを胸に刻みつつ、新たな課題への対応が常に求められる毎日であっても、今を大切にしつつ、虹を追うように住民とともに夢に向かって仕事をしていきましょうとの力強いお言葉で講演が締めくくられ、大きな拍手をもって講演が終了しました。

《参加者の感想など ～アンケート結果から～》

◇全体を通じての感想 「大変参考になった、参考になった」の回答が96.9%（他は未記入）

◇参考になった点・感想など

（調査研究報告）

- ・実際に現場活動して見えてきた課題や取組等について報告いただき、勉強になった。
- ・改訂版の「大規模災害における保健師の活動マニュアル」を期待している。
- ・平時からの準備や保健所との顔の見える関係の大切さを学んだ。
- ・リエゾン保健師の重要性を学ぶことができた。

（講演）

- ・保健師活動の原点を再確認できた。
- ・初心を思い出した。資源や住民の力を最近忘れていたように思った。元気をもらった。
- ・常に住民視点、多職種と連携した保健活動を展開しており、素晴らしいと思った。
- ・「私達が手を離しても動き続けるしくみが必要」との言葉、とても心に残った。
- ・個別事例を丁寧に、そこから見えてくる地域のあるべき方向、保健師はきっかけ作りをして、個人、地域、組織の力を借りて今後の町づくりを目指したいと思った。
- ・地域包括ケアシステムは何をもって構築したとするのか。「完成形はない」と初めてはっきり聞くことができ、ストンと腑に落ちた。
- ・流行のソーシャル・キャピタル、正直具体的にピンとくるものがなくて曖昧に捉えていたが、今日は納得した。等々

《次年度開催に向けて》

研修会の最後に、次年度開催県である宮城県の木村ブロック理事から挨拶があり、次年度の再開を約束して閉会になりました。